

# まちづくり ひろしま

被爆100年(西暦2045年)の姿をめざして

第66号 (令和5年7月15日)

読者数: 679名 (募集中)

メール: [hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp](mailto:hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp)

HP: <https://machizukurihiroshima.web.fc2.com/index.htm>

〒733-0002 広島市西区楠木町1-9-7

発行人: 前岡智之、編集人: 瀧口信二

配信元: 広島アイデアコンペ実行委員会

ご提案・ご意見等は、こちらまで

## ウクライナに平和を！平和を我らに！



○G7 広島サミット首脳たち



○広島ワールドピースコンサート



○G7 サミット直前広島イベント



○みんなの市民サミット2023

### 目次

- 座談会: G7 広島サミット後に広島のみちづくりを考える
- ひろしまのみちづくりの動き
  - ・G7 広島サミット首脳たち、原爆慰霊碑に献花
  - ・広島ワールドピースコンサート開催
- 「広島県建築士会創立70周年記念講演会」報告: 講師 建築家 坂 茂
- ほっとコーナー: 無題……………グラフィックデザイナー ウエダサユリ
- 「核廃絶を求めるG7サミット直前広島イベント」の報告
- 「みんなの市民サミット2023、核兵器廃絶分科会」の報告: 畠山澄子
- 本の紹介: 「反戦平和の詩画人 四國五郎」 著者: 四國光
- 編集後記: 共感疲労してませんか…………… 編集委員 前岡智之

## ○座談会

### G7広島サミット後に広島のみちづくりを考える

出席者：編集委員（石丸紀興、前岡智之、瀧口信二）

・日時：2023年6月21日（水）15:00～17:00

・場所：中国セントラルコンサルタント会議室

#### （前置き）

今号はG7広島サミットがメインテーマとなっているので、巻頭言もサミットに関わってこられた人、特に若い人の視点から前向きな提言について原稿を依頼していたが、願い叶わず急ぎよ編集メンバーの座談会をトップに掲載することにした。

サミットが終わった機会をとらえて、メルマガのテーマに沿った議論をしている。

#### —広島サミットの感想—

**石丸**：サミットを終え、広島が果たした役割や広島で開催した意義と今後の展望、広島に何を残したか、等について議論したい。

**前岡**：まちづくりの視点からは議論の対象にもならず、何も残らなかった。サミット開催を機に広島のみちづくりの理念を打ち出すターニングポイントにすべきではなかったか。

**瀧口**：広島ビジョンも核抑止を正当化したもので、核廃絶を訴えてきた人には不満が残る。そもそもウクライナとロシアが戦争中で、それに対して何もできない虚しさがあり、市民も忸怩たる思いがあったのでは。

1960年代のベトナム戦争時には世界中で若者たちが戦争反対の狼煙を上げ、デモ行進や反戦歌を歌ってフラワームーブメントを起こし、日本でも「ベ平連（ベトナムに平和を！市民連合）」が結成されたが、今はそんな動きが出てこないのが不思議。

**石丸**：サミット（首脳者たち）の議論の前段でいろいろなワーキングがなされ、今回のC7（市民団体の働きかけ）の中に初めて核廃絶ワーキンググループが設置されたことは一歩前進であり、広島で開催された意義として評価される。

平和記念公園がサミットの舞台として多用されたが、設計した丹下健三はどう感じているだろうか？最近、平和記念公園の設計コンペ募集要項が公開されたので、少し考察してみたい。

#### —中央公園について—

**前岡**：丹下設計の平和記念公園は広島市の貴重な財産である。中央公園まで広げた丹下構想から見ると、今のサッカースタジアム建設は問題であり、見直すべきという意見も多い。平和の軸線も丹下の思惑と今の解釈にはずれが生じているのではないか。

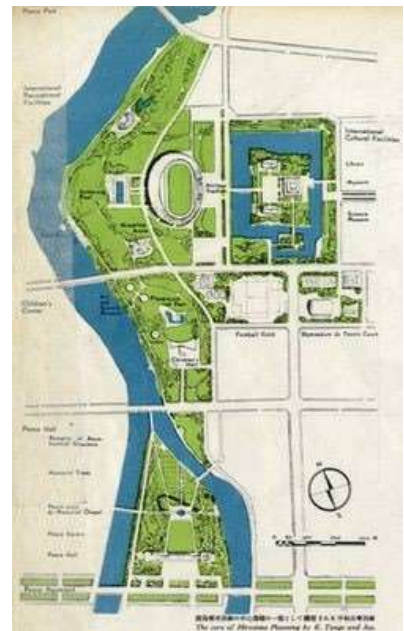
**石丸**：広島平和記念都市建設法に基づいて世界からの支援の下に復興してきたが、まだ道半ばである。これからもビジョンを持って取り組むべきと思うが、商工会議所を移転させた跡地利用はどうなっていくのだろう。

**瀧口**：商工会議所と青少年センターは移転後、緑地にして基町環境護岸と一体となった公園にする計画と聞いているが、まだ具体像は描かれていない。

**石丸**：商工会議所は高さ制限(25m)をクリアする程度に減築して、復興資料館にしてはどうか。原爆資料館で被爆の実相を知るだけでなく、復興するまでの過程を知ってもらいたい。特に、基町高層団地の形成は世界的にもお手本となる価値を持つ。

原爆ドームの向かいの場所は適地であり、2011年のアイデアコンペで高橋志保彦氏が提案したアンダーパスで原爆ドームと連絡させることができれば理想的。

**前岡**：復興資料で終わらせるのではなく、将来を見据えたビジョンが描かれた資料館にした方がよいので、ネーミングを考えたい。



丹下氏の広島平和都市建設構想案

石丸：ゲートパークがオープンしたが、そのうちに飽きられるのではないか。サッカー場が建設されたり、パーク PFI で賑わいづくりに邁進しているが、薄っぺらな感じだ。これからのビジョンとして世界の芸術家たちが集う場作りを新たに提案したい。

サッカー場がオープンすると試合当日は交通大渋滞が発生するのではないか。多くの人が公共交通を利用するにしても車の利用者は多いと思う。

前岡：基町高層アパートより高い巨大なスケールは異様に映る。ファンの声援が窓を開ければ、楠木町のこのビルまで届くであろう。中央公園の3か所でパーク PFI 事業が実施されるが、民間任せの賑わいづくりのコンセプトでは営業的に共倒れの恐れがあるのではないか。市の方でもっとしっかりしたビジョンを持つべきである。

#### —中央図書館移転問題—

瀧口：話が少しそれるが、中央図書館の移転問題をどう思うか。中央公園から追い出して広島駅前の百貨店に移転することで予算も通り、市は着々と事を進めている。

担当していた前市民局長が移転を手土産に百貨店を運営する第3セクターの代表に天下りしているが、市民感覚からすると首をかしげる。

元公務員の立場から言わせてもらえば、市の労働組合はなぜ立ち上がらない。多くの職員も疑問に思っているし、市長も悪いことと自覚しながら目をつぶっているのではないか。

市民の意向を無視して市の第3セクターの救済を優先するような腐った行政を私は知らない。庄原市では「木質バイオマス事業の頓挫」に対する住民訴訟に負けて前市長に損害賠償請求が命じられたが、行政のやり方に問題があれば住民訴訟で戦う手法がある。

市長は再選後、「安佐市民病院移転時と同じ手法を用いている」（中国新聞4月11日）と正当化していたが、状況が全く違う。安佐市民病院の場合は、交通の便の良い地から悪い地に移ることに對して住民から反対運動が起きたが、立派な新施設が残った。中央図書館の場合は、交通の便の良い地（？）に移るが、本来持つべき機能の半分程度の施設しか残らず、しかも数十年経てば解体して新築しなければいけない。建物のライフサイクルコストを考えれば、新築分の百億円近い損失を未来の市民に負担させることになる。

#### —それぞれの提言—

瀧口：広島サミットを終えたこの機会をとらえて、広島市も初心に戻って真の平和記念都市に相応しい都市に生まれ変わることを宣言してはどうか。いろいろ課題を抱えているが、その試金石がこの中央図書館移転問題の解決ではないかと思う。

前岡：中央公園アイデアコンペや建築家仲間で中央公園のグランドデザインをスタディしたが、現実には別の方向を歩んでいる。その現実を前提としながらも、これからは新たなビジョンを掲げて進めていくべきである。

この都市空間は、平和記念都市建設法の下で世界の誰もがいつでも自由に利用できるものであり、決して一部の市民や企業のためにあるものではない。

石丸：広島サミットはお祭り騒ぎで終焉したが、G7サミットとは別に「広島歴史と文化を尊重していく新たなまちづくり」の出発点として位置づけることを提言したい。

中央公園に復興資料館と世界の芸術家たちのゾーンを新たなコンセプトとして提案したが、その内容の深化と普遍化は被爆100年を超えて世界に向けて存在し続けるべく広島の役割である。



中央公園のグランドデザイン

**\*備考：住民訴訟**とは、住民が自ら居住する地方公共団体の監査委員に住民監査請求を行った結果、監査の結果自体に不服、又は監査の結果、不正・違法な行為があったにもかかわらず必要な措置を講じなかった場合などに裁判所に訴訟を起こすことができるという制度である。

住民訴訟は、地方公共団体の執行機関又は職員による財務会計上の違法な行為又は怠る事実が究極的には当該地方公共団体の構成員である住民全体の利益を害するものであるところから、これを防止するため、地方自治の本旨に基づく住民参政の一環として、住民に対しその予防又は是正を裁判所に請求する権能を与え、もって地方財務行政の適

正な運営を確保することを目的としたものである。執行機関又は職員の財務会計上の行為又は怠る事実の適否ないしその是正の要否について地方公共団体の判断と住民の判断とが相反し対立する場合に、住民が自らの手により違法の防止又は是正をはかることができる点に制度の本来の意義がある。

住民訴訟を提起することができる者は、地方公共団体の住民であり、かつ法律上の行為能力が認められている限り誰でも住民訴訟を提起することができる。一人であっても住民監査請求を行って所定の条件を満たしていれば行える。（ウィキペディアより）

## ひろしまのまちづくりの動き

### ① G7広島サミット首脳たち、原爆慰霊碑に献花！

5月19日（金）から21日（日）の3日間、広島市で先進7か国首脳会議（G7サミット）が開催された。

原爆資料館本館のピロティで各国首脳を出迎えるところからスタート。資料館東館へ案内し約40分間の見学。各自芳名録に記帳し、原爆慰霊碑へそろって参拝。その後、公園内に被爆桜「2世」の苗木を記念植樹。

午後、主会場となる元宇品のホテルで会議を開始。夕方、宮島に渡り厳島神社を訪問。続いて老舗旅館でワーキングディナーを開き、初日が終了。

二日目、午前中の首脳会議を終え、午後からは招待国首脳や国際機関トップを交えた拡大会議。そして急ぎよ、最終日の会議に参加のためウクライナ大統領が来日。

最終日、先に招待国首脳たちが平和記念公園を訪問し、原爆資料館の見学と慰霊碑への参拝を済ませ、ウクライナ大統領も加わった拡大会議に臨む。G7首脳による閉会セッション後、議長の岸田首相は原爆慰霊碑の前で記者会見を行う。

その後、ウクライナ大統領が原爆資料館を見学して慰霊碑に参拝し、公園内の国際会議場に移動して岸田首相とウクライナ大統領が会談。

無事サミットが終了し、交通規制やバリエードが解かれ日常に戻ったが、サミットの本当の真価はこれから問われてくる。サミットを機会に被爆者たちの核廃絶への悲痛な叫びや若者たちの平和を求める行動など各種イベントが開催された。思いは必ずしも届かなかったかもしれないが、諦めずに正しいと思うことを主張し続けることではないか。

自由に議論ができる社会が大事なことは、先の大戦の歴史から学んだことであり、今回の広島サミットを経て改めて感じた教訓の一つである。



### ② 広島ワールドピースコンサート開催！

広島市出身のシンガーソングライター原田真二さんが5月17日（水）に平和記念公園で5時間にわたる「[広島ワールドピースコンサート](#)」を開催。G7サミット直前の広島から、平和への熱い思いを音楽と祈りに乗せて世界に発信しようという趣旨で、原田さんが理事長を務めるNPO法人ジェントル・アースが主催。

冒頭、原田さんがウクライナ侵攻を進めるロシア大統領に対して戦争の即時停止を訴え、続いて仏教・神道・キリスト教・イスラム教の司教たちがそれぞれ祈りを捧げ、コンサートがスタート。各人のメッセージは英訳され、ユーチューブで世界に同時配信。

ミュージシャンは原田さんから声を掛けられ、平和構築の重要性と強い意志に賛同した10組（海外からの動画参加を含む）が参加。最後は、原田さんの母校である本川小学校児童も加わり参加者全員で原田さんの楽曲「ひろしまから始めよう」を歌い、コンサートを閉会。

総合司会のタレント早見優さんがミュージシャンのメッセージを英語或いは日本語に通訳。ミュージシャンも原爆ドームを背景にしたこの地で演奏できることを誇りに感じている様子。歌う前のコメントにも力がこもり、広島から平和を発信したい気持ちが歌に乗り移って聴く人の心に響く。サミットで注目されたこの時期に平和記念公園でワールドピースコンサートを開く意義は大きい。



## ○「広島県建築士会創立 70 周年記念講演会」報告

テーマ：作品づくりと社会貢献の両立を目指して

講師：建築家 坂 茂

(趣旨) 広島県建築士会が創設されて 70 年を迎えた記念講演とすると共に令和 4 年度の「公開まちづくりセミナー」とする。

主催：広島県建築士会

日時：2023 年 3 月 13 日 (月) 18:30~20:00

場所：広島県民文化センター

### 建築家としての思い

仕事を始めて 10 年経った頃、建築家の仕事は裕福者や特権階級の人たちが求めるものをモニュメンタルに表現する仕事であり、あまり社会の役に立ってないと気付き、医者や弁護士のように困っている人たちの役に立ちたいと思う。地震により死者が多数出るのは、建物の崩壊が主原因で、建築家として責任を感じる。災害時に困っている人たちの住環境を改善するのも建築家の仕事であり、被災者のための避難場所や仮設住宅等の支援に本格的に取り組む。

### 紙管建築の始まり

独立して最初の頃、仕事で建築家アルヴァ・アアルト展覧会の企画と会場構成を担当。天井や間仕切りに初めてファックス用紙やトレーシングペーパー等の芯に使われる紙管を採用。構造的に強いことが分かり、自分の別荘を建てて実験を重ね、紙管構造の大臣認定を受ける。

### 建築作品の紹介

・ハノーバー万博日本館：2000 年開催のこの万博は「環境問題」が主テーマで、再生材を使って建築を作る人として政府から指名。紙管を使って構造体を作り、屋根には防水・不燃加工した紙を使い、基礎は木枠の中に砂を詰めた。紙管は解体後に紙管メーカーに戻す契約。

・スウォッチ・グループ日本本社ビル：銀座通りに面した間口の狭い敷地。正面と裏通り面を 4 層分のガラスシャッターで覆い、それを開くと裏通りに通り抜ける「通り (パッセージ)」を設け、銀座通りから入居する 7 店舗に直接アクセスできる工夫。2007 年完成。

・ポンピドー・センター・メス：ポンピドー・センターの分館でメス市にある。2003 年の国際コンペで勝ち取る。センター内のベランダに紙管等で仮設事務所を作り、そこでスタッフと共に設計に従事。2010 年完成まで 6 年間無料で借用。

中国の竹で編んだ帽子から着想した波打つ木構造の屋根の下、3 本の四角いギャラリーチューブの両端をピクチャーウインドウにし、地上階は全面ガラスシャッターで開放的な建築。



ポンピドー・センター・メス

・大分県立美術館：建物の正面に水平折り戸を設け、開放することで半外部空間となり、まちに開かれた展示やイベントなど前面の街路空間と一体となった利用が可能。2014 年完成。

・下瀬美術館：大竹市に位置し、瀬戸内海に面した眺望の良い場所。水盤の中に 8 個の台船の上に箱型の展示室を設置。水かさを増やして浮かせ、展示内容により展示室を自由に可動できるのが特徴。他に、レストランや 10 戸のビラがあり、滞在型のリゾートが楽しめる。

美術館は 3 月にオープンし、ビラの方は 4 月からオープン。

・富士山世界遺産センター、チューリッヒの木造 7 階建て新聞本社ビル、その他多数。

### 仮設建築とパーマネント建築

鉄筋コンクリート造が恒久的で、紙管建築が仮設というのは誤り。四谷見附に建つ丹下健三設計のプリンスホテルが 30 年弱で解体。金儲け目当ての商業建築は仮設であり、紙で作られた建築でも愛情をもって使われればパーマネント建築になる。

### 災害時応急施設づくり

1994 年、ルワンダの難民キャンプのため、紙管を使ったシェルターづくりを国連難民高等弁務官事務所に提案。採用され、1995 年から 5 年間コンサルタント業務を委託される。

1995 年の阪神淡路大震災では神戸に「紙の教会」を建てる。仮設期間 3 年の予定が 10 年間、まちのシンボルとして使用。建て替え時期に台湾で地震が発生したので、台湾に寄付する。部材を解体して移築し、今でも教会兼集会所として使用。



略歴：1957 年東京生まれ。84 年、米国クーパー・ユニオン建築学部卒。82~83 年磯崎新アトリエ勤務。85 年、坂茂建築設計設立。主な作品にポンピドー・センター・メス他。2014 年、プリツカー建築賞、他多数受賞。

2011年の東日本大震災では紙管と布を使ってプライバシーが確保できる間仕切りを提案。また女川町では市松模様にコンテナを積んで3階建ての仮設住宅を作る。コンテナはバスユニットや寝室とし、すきま空間をダイニングや居間として利用。居住性が好評。

2018年の広島の高雨災害でも避難所用間仕切りシステムを採用。紙管シェルターを提案してから足掛け15年経って、2019年に内閣府から承認され、今では標準品として立川の防災基地倉庫に備蓄されている。

海外でも多くの地震災害や水害などを受けた地域に出かけて避難所づくりや仮設住宅づくり等に貢献し、海外から高く評価される。今もウクライナの難民やトルコ・シリア大地震の避難所づくり等に奔走している。

#### 質疑応答（要点のみ抜粋）

・磯崎新をどう評価しているか？→高校時代に磯崎設計の群馬県立美術館を見て感動し、将来は磯崎アトリエに入所したいと思う。アメリカの大学在学中、途中1年半ほど彼の事務所に勤務。彼は世界の名だたる建築家達との設計コンペに勝ち抜いて世界に建築を建てたさきがけの人であり、その建築家としての生き方を学ぶ。

・被災支援時ではなく、平時における社会貢献は？→本格的な復興時の建築は地元の建築家と地元の人たちで実施するのが望ましい。自分は復興するまでの仮設期間を担っている。

・広島のまちづくりをどう思うか？→広島には村上徹さんや三分一博志さん他、多数の良い建築家が生まれ、まち全体の建築のレベルを高めている。

#### \*コメント\*

避難所づくりの「坂茂」という名前を知っている程度だったが、講演を聞いて2014年に建築界のノーベル賞とされるプリツカー建築賞を受賞した理由が分かった気がした。建築家として自分の信念をもって世界に羽ばたいている稀有な人である。

（編集委員 瀧口信二）

## □ ほっとコーナー

### 無題

グラフィックデザイナー ウエダサヨリ

葉っぱが落ちて重なって放っておいたら、いつの間にか土になっていて、いつの間にか何かの芽が出て、いつの間にか花が咲いたり、いつの間にかそれはくねくねと横に伸びていて、そこら辺に転がっていた何かが壊れた鉄のカケラに巻きついている。それらはいつの間にか茶色く枯れて、いつの間にか無くなっていて、いつの間にか次の土となっている。

いつの間にか爪は伸び、いつの間にか髪の毛は伸びて、いつの間にか皮膚には溝が刻まれて、いつの間にか友は時間の裏側に旅立ち、いつの間にか新しい友がこの時間にやってきている。そして自分の時間と友の時間はどこかで重なる。若き友が年老いた時間と、心と重なってみたいなあと思ったが、生き物として生きる以上それは無理というもので。そんな風に色々な命は色んな重なりで繋がっているのだ。

窓から森の様になっている崖の樹々を仕事をしながら眺めている。春、鳥の子ども達は始めは群れであちこち冒険して回る。ヒヨドリはイタズラ坊や。目の回りが白いメジロは集団でやって来てその中には必ずアカゲラがいる（ウチにくる時はね）トントントンって音がする。たまにやってくるキジはダンサーの様に歩く。



先日折れた木の枝に小さな籠があり、よく見ると緑色の何か？鳥の巣だった。驚いてその枝を元の木に紐で括り付け他の何かに狙われないように木の枝を葉で覆い、親鳥が気がついてくれるのをじっと待った。その夜は大雨で翌朝そっと巣を覗いてみたけど、昨日の様に口を大きくピーピー云わない。葉っぱでチョココンと触れてみたけど動かない。死んでしまったのか、。

昼頃ふっと見ると何かを啜えたメジロがその巣に。雛も口を開けていた。ホッとした。それから4日後に巣立った。少し淋しい。そして6月、ツバメが樹々の間をブーメランの様にすり抜けて飛んでいく。低く飛ぶから明日は雨かな。夏、嵐の日、カラスは電線から風に飛び込む。何度も風に流されては皆順番に。まるで今日はトンビの様に。

## ○「核廃絶を求めるG7サミット直前広島イベント（\*リンク参照）」の報告

～どんな声が今、広島から世界に届けられるべきなのでしょう～

ロシアとウクライナの戦争が長期化し、米中の対立が深まるなか、広島で開催されるG7サミット直前に、市民の平和への思いを再確認すると共に単なる政治ショー「お祭り」にしないため、どのようなメッセージを世界に発信すべきかを考えるイベントを開催。その概要を紹介。

- ・日時：2023年5月17日（日）18:00～21:00
- ・場所：広島弁護士会館大ホール
- ・主催：核廃絶を求めるG7サミット直前広島イベント実行委員会



第1部 講談/神田香織「はだしのゲン」（ダイジェスト版）

第2部 パネルディスカッション 18:30～

司会：金平茂紀（ジャーナリスト）

パネリスト：平岡敬（元広島市長）、森滝春子（核兵器廃絶をめざすヒロシマの会）

高橋博子（奈良大学教授・歴史家）、神田香織（講談師）

**金平**：ミュージシャンの坂本龍一が生前「日本はなんで本音が言えない国になったのか」と語っていたが、ここでは本音で語り合うこと。権力には批判精神を持ち、おもねらないこと。少数派でも自分の主張を大事にする事の3原則で話を進めたい。

### —G7広島サミットの意義、期待と懸念—

**平岡**：岸田政権は昨年末に国家安全保障関連3文書を国会で審議せずに閣議決定し、専守防衛から戦争できる国に方向転換。広島は戦後一貫して戦争反対と核抑止を認めない立場であり、広島で開催するならその方向性を尊重してほしい。

サミットでロシアとウクライナの戦争を一日も早く止めさせること、核廃絶への具体的道筋を付けることができれば成功だが、ロシアへの制裁強化とウクライナへの武器供与の決議で終わってしまう可能性が大きい。

**森滝**：核の問題は核兵器だけでなく核開発や原発、ウラン採掘等、核の被害は国境を越え、核の時代に国境は意味があるのか。ロシアに侵略されたウクライナが抵抗するのは当然だが、どちらかを応援するのではなく終わらせる外交努力を優先すべき。核兵器廃絶の視点から言えば、核抑止を認めながら核廃絶を唱えるのは自己矛盾。

**金平**：広島の地名は人類の歴史的悲劇の象徴として、中東の小さな国々の子どもたちにも知られている。その広島で核兵器を容認するような決議がなされれば、広島が広島で無くなる。

**高橋**：アメリカに批判的な報道を禁止したGHQによる占領統治下のプレスコード（報道規制）が今も律義に守られているのではないか。「はだしのゲン」に登場する町内会長鮫島伝次郎は、戦前は軍国主義を先導し、戦後は豹変して平和のために一身を投げ打つと宣言して市議会議員になり、親米にまい進するが、日本の権力者の姿そのものである。

### —「はだしのゲン」、平和ノートからの削除問題—

**神田**：「はだしのゲン」は被爆の惨状や加害の歴史等が描かれ、戦争の時代背景等を学んだという人が多い。広島市が平和教材から削除したのは火に油を注ぐ感じ。「お帰り、はだしのゲン」キャンペーンを張って、アニメや映画や芝居にしてみんなのものにしていきたい。

**金平**：市教育委員会の議事録を紐解くと、委員から削除してほしいという意見は出ておらず、ある時点から削除を前提とした議論がなされている。何か大きな力が働いているとしか思えない。G7広島サミットと関係はあるか？

**平岡**：政治がどんどん右傾化し、核抑止論に立つ人が多くなり、その人たちにとっては核の被害を矮小化したい。そのような政府の姿勢を付度して市が進めているのではないか。

**高橋**：国の学習指導要領にも国粋主義的な内容が盛り込まれている。また、政府は日米同盟の核抑止力を認めているので、広島サミットに合わせて市も足並みを揃えようとしている。

「はだしのゲン」の代わりに採用される教材は、日米友好を訴えるものになっている。

**森滝**：2014年に核兵器禁止条約制定のための国際会議がウィーンで開催され、その会場に英訳の「はだしのゲン」を展示。ICANの若いスタッフが真剣に読んでいたので、譲ったら大喜びしていた思い出がある。多くの外国語に翻訳され、世界中で読まれているということにお膝元の広島市が教材から削除するとはどういうことか。目に見えない権力により、教育を使って現実から目をそらせ、核被害の実態を隠ぺいしようとしていることに危惧を感じる。

金平：核を持って抑止するのは良いが、核で脅すのは悪であるという論調がまかり通っている。本来は、核兵器はいかなる国も、いかなる状況においても使ってはいけない非人道的兵器であり、核抑止力も否定すべきものである。

#### —原爆資料館の見学—

金平：メディアはサミットをショー化しようとし、テレビ映える映像を取りたがる。首脳たちが岸田首相のガイドで原爆資料館を見学することについてどう思うか。

平岡：じっくり見てもらうことは被爆の実相を知ってもらうために意義がある。見れば、普通の人なら広島で起きた壮絶な惨状を想像し、核に対する思いも変わるだろう。

森滝：丁寧に見て欲しいし被爆者の証言を直に聞いてほしいと要望しているが、岸田首相のパフォーマンスに終わるのでは意味がないし、政治利用されるのは害でしかない。

神田：被爆者の証言ビデオコーナーにも立ち寄り、半日ぐらいかけて見てもらいたい。この惨状を知って、核を落としたアメリカが謝らないのも謝罪を求めない日本政府もおかしい。

#### —会場から—

田中美穂（核政策を知りたい広島若者有権者の会「カクワカ広島」共同代表）：2019年から地元選出の国会議員に核政策等についてヒアリング等を実施。残念ながら岸田首相とはまだ会っていない。ウクライナ戦争以降、核廃絶について躊躇する議員が増加。核問題だけでなく、すべての人の人権が平等に尊重される社会に変えていくことが平和につながる。

宮崎園子（フリー記者）：朝日新聞に勤務していたが、8・6や3・11のように記号化してその時だけ取り上げる東京本社と被爆地広島との意識のギャップを感じて2年前に退社。原爆により亡くなった無念の人が眠る広島は怒りを忘れてはいけない。今後は核の問題を中心に据えながら、ジェンダーや地球環境などの構造的問題と歩調を合わせることでさらに前進。

#### —最後に一言—

神田：「はだしのゲン」を世界に発信して、世界平和のために飛躍させましょう。

森滝：今回のサミットは核軍事同盟の強化を図る場となるに違いない。核被害者と共にある民衆との連帯しか核を持つ権力に打ち勝つ道はない。決して絶望することなく未来のために。

高橋：1955年に広島で第1回原水爆禁止世界大会が開かれ、その時歌われたのが「原爆許すまじ」。ウクライナの件も外交で戦争回避すべきだった点をもっと過去の歴史に学ぶべき。

平岡：戦争反対と言えない時代が来るかもしれない。無視されようとも勇気をもって、そうならないように広島は戦争反対と核兵器廃絶を叫び続けなければいけない。

金平：日本も加害の歴史を認めなければ歴史を学んだことにならない。加害を認めたくない人たちが権力にへつらう人たちが多数派となる現実は息苦しいし、戦争反対が言えなくなる。

（編集委員 瀧口信二）

## ○「みんなの市民サミット2023、核兵器廃絶分科会」の報告

### ～どうやってつくったの核兵器廃絶提言～

5月に開催された先進7か国首脳会議(G7サミット)の前に、広島県内外の市民団体でつくる実行委員会が4月に「みんなの市民サミット2023」を開催。17の分科会のうちCivi17(C7)の核兵器廃絶ワーキンググループがまとめた政策提言の分科会について概要を紹介する。

- ・日時：2023年4月16日（日）14:30～17:00
- ・場所：広島平和記念資料館
- ・主催：みんなの市民サミット実行委員会

### 開会あいさつ：香川剛広（広島平和文化センター理事長）

ロシアがウクライナ軍事侵攻して1年以上が経過し、核兵器使用のリスクが高まっている中、広島でG7サミットが開かれることは世界的に重要な意義を持つ。G7に加えて招待国の指導者たちが一堂に会して被爆の実相を知り、具体的な施策に反映して核兵器なき世界を目指すという力強いメッセージを発信してもらいたい。

また報道を通じて世界中の人たちが広島に関心を抱き、市民レベルで交流が生まれるチャンスとなることを期待したい。



## 第1部：核兵器廃絶ワーキンググループ（WG）の報告

### （1）WGコーディネーター：畠山澄子（ピースポート共同代表）

#### —G7とC7の関係—

G7サミットは先進7か国の首脳たちが持ち回りで毎年1回開催されている。そこで議論される内容に対して働きかけをする「エンゲージメント・グループ」があり、その中に市民の立場から政策を提言していくC7（市民社会）がある。その他にB7（ビジネス）、L7（労働組合）、S7（科学）、T7（シンクタンク）、W7（女性）、Y7（若者）等。さらにC7の骨格を議論する場として、「気候と環境正義」、「公正な経済への移行」、「国際保健」、「人道支援と紛争」、「しなやかで開かれた社会」の5つのワーキンググループ（WG）がある。

昨年は取りまとめたC7の提言書を議長国ドイツのシュルツ首相に手渡し、本会議で取り上げてもらうよう要請。そして11月にドイツの市民団体から日本へC7の引き継ぎが行われた。

#### —核兵器廃絶WGの新設—

被爆地広島で開催されるなら、核兵器廃絶をテーマに議論すべきという声が高まり、ワーキングの受け皿作りを検討し、議論の準備をする。地道なロビー活動もし、C7の運営委員会の承認を得て、新たに核兵器廃絶WGが誕生。

C7は国際的なプロセスであるため議論には英語が使われる。ただ核兵器廃絶WGは国内の団体等の関係者も多いので、3回の意見調整会議は英語で行い、その合間に2回の日本語による会議を行って、提言を練り上げていった。国内の調整を私（畠山）がし、海外の調整を核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のスージー・スナイダー氏が担当。

#### —核兵器廃絶WG政策提言「核兵器のない世界へ」—

多様な意見を調整し、「核のない、誰一人取り残さない、持続可能な社会」を目指した提言書を英語で約1600ワードの4頁にまとめ上げ、C7の提言書のトップを飾る。

##### ・はじめに

G7首脳が広島を訪れる意義を理解し、被爆者の思いを汲んだG7にして欲しい。そのため被爆者から直に話を聴き、核兵器の使用が人々や環境にもたらす被害を認識して欲しい。

##### ・核兵器をめぐるG7の責任

G7には核兵器を保有する国もあり、広島開催のサミットでは核兵器廃絶に対するコミットメントが求められる。

##### ・現在の課題と問題点

- ①ロシアのウクライナ軍事侵攻により核のリスクが高まっている現状において、まずはリスクの削減、緊張緩和のための措置を早急にとって欲しい。
- ②中期的には核軍縮をし、最終的には核廃絶をする。目標として、核兵器が初めて使用されてから100年の節目となる2045年までに実現してほしい。
- ③核軍備に使われている資金は莫大であり、それを核軍縮や公衆衛生、気候保護、或いは核によって汚染された環境修復や核被害者援助などに再分配する。
- ④そもそもジェンダーなどの構造的な差別が核軍縮の障害になっているので、女性や意見が代表されにくい人たちの声も政策に反映されるような横断的アプローチをとる必要がある。また若い人たちの軍縮教育のために資金を回す必要がある。

#### —その後のフォロー—

先週、4月12日にC7の政策提言書を岸田総理に手渡す。さらに6つのWGが一堂に会してC7サミットを開き、それぞれの視点で意見交換をしながらC7の成果を分かち合う。

C7の検討は核兵器廃絶の問題を他のWGの様々な問題と関連付け、大きな文脈の中に位置づけるというプロセスでもある。人道支援のWGのメンバーからは、核兵器の問題をよく知らなかったと反省する声も聞かれた。

#### —感想—

初めてコーディネーターを務めて、調整に調整を重ねる地味な作業であり、多様な意見をまとめる難しさを感じた。お互いの違いを理解し合い、尊重し合い、一つにまとめて大きな声にしていく努力は意義深い。この経験を踏まえて、提言したことが一つでも二つでもG7の成果物として取り上げられるように努力していきたい。



## (2) WG コーディネーター：スージー・スナイダー (ICAN プログラムコーディネーター)

(要約)

通訳：服部淳子 (ワールド・フрендシップ・センター)

この政策提言をどうしたら実現できるかを考えたい。核兵器廃絶の考えはG7の国の国会議員にも多くの支持者がいるが、無差別に被害をもたらす核兵器の欠点を認めたくない人もいる。だが、NATO (北大西洋条約機構) の指導者も、核兵器は抑止力にならないし、使用してはいけないと発言しており、核廃絶もあと1歩手前のところまで来ている。

実現するための三つのツールとして一つ目は、核被害のストーリーを語り、多くの理解者を得ることで、これが一番有効。二つ目は、すでに締結された核兵器禁止条約を広めること。三つ目は、楽しみや喜びを分かち合い、より良い社会にして若い人につなぐこと。

### 第2部：ICANからの報告：核兵器関連企業に投融資しない運動 (省略)

(編集委員 瀧口信二)

## ○ 本「反戦平和の詩人 四國五郎」の紹介 著者：四國光

四國五郎についてはメルマガでも Hihukusho ラジオのゲスト四國光さん (第52号) と永田浩三さんの講演会 (第62号) の中で紹介している。G7広島サミットが終わり、ウクライナ戦争がますます混迷を深める中、この本に出会えたことに感謝している。

四國五郎 (1924-2014) は広島に生まれ、軍国少年として育ち、満洲へ従軍して敗戦を迎え、3年余の過酷なシベリア抑留を体験して復員。広島に戻って被爆の実態を知り、峠三吉と出会い、反戦平和のための表現活動に邁進していく。

無二の同志・峠との共同作業になる「われらの詩の会」の活動や「辻詩」の運動、「広島平和美術展」の開催、各種の要望に応えたポスター制作、「市民の手で原爆の絵を」運動の推進、「絵本おこりじぞう」の挿絵、「母子像」や「ひろしまのスケッチ」や「広島百橋」等々、膨大な「絵」と「詩」を描き続けた。

特に1950年代初めのGHQによる言論統制の厳しいなか、絵筆と言葉を手段とした反戦・反核の抗議活動を広島を起点として全国的に展開した広島の若者たちに共感する。今、広島は保守的なまちとして語られることが多いが、平和を求めて命がけで戦った人たちが多数いたことは誇りであるし、その根源は非人道的な原爆に対する激怒であったろう。

広島には彼らの功績を顕彰する施設がもっと沢山あっていいし、広島に住む人はその怒りを内心に持ち続けることが求められているのではないか。

マーチン・ルーサー・キング牧師の言葉「最大の悲劇は、悪人の暴力ではなく、善人の沈黙である。沈黙は暴力の陰に隠れた同罪者である」が引用されているが、今の世相をズバリ言い当てている。ウクライナ戦争でもそうだが、身近な問題でもおかしいと思えることに対して意見が自由に言えない社会になりつつある。

四國五郎は市の職員でもあったので、過激な行動に走ることはなく、自分の得意とする絵筆と言葉を使って戦争の惨禍と平和の尊さを訴え続けてきた。それぞれがそれぞれの得意分野で戦うことにより、世の中を変えようと努力していた。それが文化の力を育んでくれたが、今の広島はその文化の力が弱まっているような気がしてならない。

一番印象に残ったのは、付録に掲載されている「弟の日記」(四國五郎著)である。最愛の弟・直登が被爆し、亡くなる8月28日の前日まで日記を書いている。その日記を読んで四國五郎が「弟よ」と問いかける形で弟への心情を吐露している。そして戦争を憎み平和を追い求める決意をする。本人の文章だけに伝わるものが大きい。

著者は四國五郎の長男であり、家族の視線から父親の軌跡をたどり、素顔に迫っている。本の「はじめに」に「戦争を起こす人間に対して、本気で怒れ」と記している。これは子供の頃に父親から叱られたときによく聞いた言葉という。これは四國五郎の本心であると共に著者の今現在、最も伝えたいメッセージであろうと理解した。

多くの気づきを与えてくれた一冊と思う。

(編集委員 瀧口信二)

注) 定価：2970円、出版社：藤原書店、発行：2023年5月29日



## □ 編集後記

### 共感疲労してませんか

「共感疲労」とは、気がつかないうちに疲労が溜まるということだが、コロナ、地球環境の危機、ロシア・ウクライナ戦争、台湾海峡の緊張などが原因しているのか、自分ではどうにもしようがない。

2011年、広島のこれからのまちづくりを考える目的で、「被爆100年後の広島中央公園のランドデザインはどうあるべきか」をテーマにコンペティションを開催した。全国から72作品の応募があり、市民投票と特別審査によりいくつかの案が選ばれた。

折しも被爆復興から未来に向かう転換の時であり、まちづくりのきっかけとして大きな期待をもった。続いてこの機会に、より多くの市民に広島のみちづくりの変遷やこれからの動きを知ってもらい、共感の持てる広島になることを期待してこのメルマガ『まちづくりひろしま』を発行した。

以来この号で第66号(隔月発行だから丸11年)になる。この間、広島のみちづくりは都市全体の将来像が感じられないままに、サカスタ、球場跡地開発、中央図書館や青少年センター移転など次々と変化してきている。

平和記念都市建設法を根幹とする復興から被爆100年を目指したまちづくりの理念とはかけ離れてきたと感じるのは私だけだろうか。

読者の方々もここで広島のみちづくりにとって「共感疲労」に病んでいないかどうか考えてみてはどうだろうか。

(編集委員 前岡智之)

**\*メルマガを読まれての感想や質問及びひろしまのみちづくりについて  
皆さんの自由な提案・意見をお聞かせください!**

(投稿は500字程度でお願いします)

#### 編集委員

石丸紀興	広島諸事・地域再生研究所主宰
瀧口信二	広島アイデアコンペ実行委員会事務局
通谷 章	ガリバープロダクツ代表
前岡智之	中国セントラルコンサルタント代表